

## VII 成果と問題点

### 1 浜厚真3遺跡のTピットについて

これまで述べてきたように、今回の調査では3,390m<sup>2</sup>の調査面積から173基のTピットが検出された。本遺跡の所在する勇払平野東部では、これまでに「苦小牧東部工業地帯の遺跡群」（以下、「苦東遺跡群」）等の調査によって、500基を越すTピットが報告されている。ここでは、本遺跡と「苦東遺跡群」のTピットとの相違点について若干の比較を行い、本遺跡の特徴と問題点のいくつかを明確にしておきたい。なお「苦東遺跡群」の位置は、図II-4-5に示されている（表VII-1-1の番号は図II-4-5に対応）。

#### (a) 立地

本遺跡は台地から低湿地へ地形が変化する部分に立地している。台地と低湿地の間には標高7～8m（中央部の調査終了面）の平坦部が形成されており、Tピットの大半はこの部分で検出された。

一方の「苦東遺跡群」中の各遺跡は、いずれも厚真台地（40等のある台地）、静川台地（100等のある台地）、柏原台地（16等のある台地）、遠浅台地（81等のある台地）の頂部、標高約10m以上にあり、本遺跡とは対照的な立地である。

#### (b) 分布密度

Tピットの分布密度は、「調査面積（m<sup>2</sup>）／Tピット基数」から割り出され（厚真町教委2001）、本遺跡の場合、19.6m<sup>2</sup>につき1基となる。

「苦東遺跡群」のうち、最もTピットが検出されている静川14遺跡（40番）では130.1m<sup>2</sup>につき1基、次いで多い厚真7遺跡（100番）では90.9m<sup>2</sup>につき1基である（表VII-1-1）。台地ごとにみると、各台地とも約300～400m<sup>2</sup>に1基検出される程度で、本遺跡に比べるといずれもTピットの密度は低い。遺跡の範囲のとらえ方で計算上の値は変わるが、本遺跡が高密度にTピットの分布する一帯であることは理解されよう。

本遺跡のTピットを「苦東分類」によって分類したところ、B1型にあてはまるものが最も多く67基、次いでA1型、A2型、C2型、B2型、C1・C型となる（表IV-2-1）。

これに対して「苦東遺跡群」全体（534基）では、A1型が248基で半数に近く、以下B1型、C2型、A2型、C1型、B2型の順になる（表VII-1-1）。ただし、B1型とC2型の差はわずか3基で、台地によっては両者が逆転する場合もあり、これらはほぼ同数とみてよいであろう。

このように「苦東遺跡群」では、A1型のTピットが最も多いが、本遺跡ではB1型が多い。また、「苦東遺跡群」におけるB1型の検出数をみると、調査面積177,830m<sup>2</sup>に対して71基にとどまる（約2,500m<sup>2</sup>につき1基検出される程度）。これらを合わせて考えると、台地と低湿地の間に平坦部のある本遺跡のような場所に、台地頂部よりもB1型の多い可能性がある。

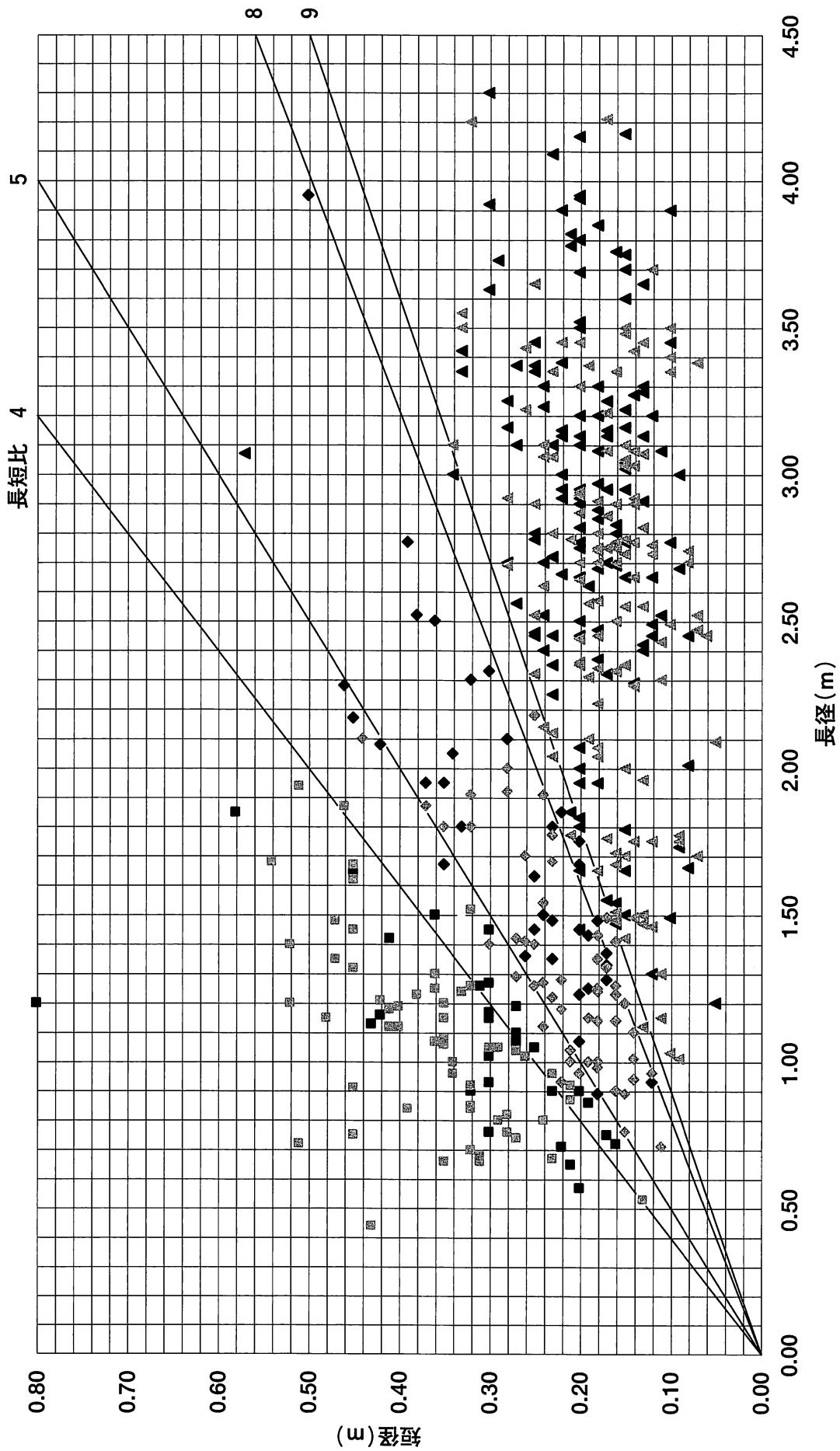
#### (c) 形態

図VII-1-1は厚真台地と静川台地のTピット約500基について、底面の長径と短径の相関をあらわしたものである。本遺跡での相関図（図IV-2-4）と比べると、両者ともおおむね同様の分布を示しており、とくに異なるまとまりはみあたらない。

各分類についてみると、A1型は、両者とも2.5～3.5m付近にまとまりがみられる。本遺跡のA1型は2.4～4.0mのまとまりがあったため、あえてA1-L型として区別したが、厚真・静川台地のものをあわせてみると、2.4mとした境界は曖昧になり、2mを境としてA1型とA2型に分けることで充分であったかと思われる。2m以下のA型（A2型）については、本遺跡の場合、B型との境界

△A型 ◇B型 □C型 (黒塗りは厚真、薄綱は静川台地)

図VII-1-1 Tピット底面における長径・短径の相関図 (厚真・静川台地)



が不明瞭であり（図IV-2-4）、配列を想定する際には、A2型、B1型をあわせて検討した方がよいと考えられる。

B型は、本遺跡では約1～2mに集中しているが、厚真・静川台地では約1～1.5m程度のものが多い。C型でとくに目立つ点はない。

以上、(a)～(c)の3点について、本遺跡のいくつかの特徴を明確にしたつもりである。続いて、本遺跡のTピットの問題点について若干ふれておきたい。

IV章でも述べたが、TP-74の覆土1・2層は隣接するTP-73の掘り上げ土と推測される。一方、覆土3～10層は晩秋から春先にかけて、土壤中の水分が凍結・融解を繰り返したことにより、壁面等が崩落して堆積したものとみられる（本頁25～33行参照）。このことから、使用されなくなった74がくぼみとして確認できる時点で73は構築され、その掘り上げ土で74のくぼみを埋めたと推測される。さらに、73・74ともA1-L型で、規模・長軸方向についても概ね同じであることを考慮すると、74が使用されなくなってから1年ほどの間に、その代わりとして73は構築されたのではないかと考えられる。

さて本遺跡のTピットの中には、重複するものや、隣接するTピットの掘り上げ土によって埋められたもの（以下、埋め戻しと略）があることから、全てが同時に構築されたわけではない。ここで本遺跡における重複と埋め戻しの差を整理すると、①同分類・同規模のものは重複しないが、長軸方向をほぼ同じくして隣接する場合、埋め戻される例がある（TP-73と74等）、②異なる分類どうしでは重複する例があるが（TP-56と78等）、隣接するものに埋め戻しは確認されていない。

①と②、さらにTピット覆土の堆積を合わせて考えると、同分類で規模・長軸方向も概ね同じTピットどうしの隣接は、Tピットが埋まりきっていないため重複しないとみられ、構築の時間差が短い可能性がある。異なる分類のTピットどうしの重複は、Tピットがほぼ埋まりきっているため重複するとみられ、構築の時間差が長い可能性がある。以上のことから推し量ると、本遺跡でのTP-73と74（ともにA1-L型）の隣接等は同分類のものがほぼ同時期（時間差が短い）に構築されたことを、TP-56（A1-L型）と78（B1型）の重複等は異なる分類のものが時期も異にして（時間差が長い）構築されたことをうかがわせる。

ここで本遺跡のTピットを冬季に観察する機会があったので、簡単に紹介しておきたい。

2002年10月25日：現場調査の最終日。初霜が降りる。

2002年11月初旬（曇り、正午頃）：TP-9に枯葉がかなりたまっている。

2002年12月1日（晴れ、午前10時半頃）：調査終了面は霜柱が立ちびカブカである。観察された全てのTピットは、壁面から崩落したⅦにより半分近くまで埋没している。埋まりきっていない壁面にはⅦの付着した霜柱がびっしりと立ち、小さな崩落を起こし続けている。まだ積雪はない。

2003年1月26日（晴れ、正午頃）：積雪20cm程度。TP-99は調査終了面から約45cm下まで埋まっている。地表はピンポールが刺さらないほど凍てついて固い。TP-145の開口部は長径が40cm程広がっていた。積雪により多くのTピットの位置は不明である。

花粉分析・植物珪酸体分析の結果によれば（VI章2参照）、Tピットが構築された頃の本遺跡は、キク亜科やイネ科などの生育する開けた草地であったと推測されている。また、ヨシ属等も検出されていることから、近くに湿潤な場所があったとみられており、本遺跡の低湿地部分が該当するであろう。すでに述べたが、浜厚真3遺跡は台地から低湿地へと変化する地形の境界部分に立地している。Tピットの構築にあたってこのような立地条件がいかに好適であったかは、173基にのぼるTピットの数によって示唆されている。（山中）

表VII-1-1 「苦小牧東部工業地帯の遺跡群」 Tピット一覧

台地	番号	遺跡名	面積 (m <sup>2</sup> )	基数	1基/m <sup>2</sup>	A 1	A 2	B 1	B 2	C 1	C 2	C	D	不明	合計	報告書
厚	42	静川	18,234	41	1/444.7	17	5	6	1		12				41	VIII
	40	静川14	15,608	120	1/130.1	41	13	23	8	12	23				120	VI
	41	静川15	2,187	1	1/2187.0	1									1	VI
	44	静川18	2,974	2	1/1487.0	2									2	VII
	45	静川19	2,974	11	1/270.4	5		1	4		1				11	V
	46	静川20	2,687	17	1/158.1	9	1	1	2		4				17	IV
	47	静川21	2,544	4	1/636.0	1		3							4	IV
	48	静川22	13,064	21	1/622.1	11	4	2		1	2		1		21	IX
	49	静川23	2,770	1	1/2770.0						1				1	VII
	50	静川24	2,562	2	1/1281.0	2									2	VII
	51	静川25	8,174	13	1/628.8	12			1						13	VII
厚真台地合計			73,778	233	1/316.6	101	23	36	16	13	43		1		233	
静川	95	厚真1	5,208	12	1/434.0	5		2	1	4					12	I
	96	厚真2	3,241	8	1/405.1	3	1	3			1				8	I
	97	厚真3	6,366	31	1/205.4	21		2	3	4	1				31	III
	100	厚真7	7,185	79	1/90.9	27	10	10		10	1		21		79	II
	101	厚真8	6,829	9	1/758.8	5								4	9	I
	103	厚真10	2,707	3	1/902.3			1	1	1					3	I
	105	厚真12	1,812	2	1/906.0	1		1							2	III
	106	厚真13	3,200	9	1/355.6	7	1				1				9	IV
	107	共和1	5,711	7	1/815.9	3	1			1	2				7	II
	30	静川4	2,300	17	1/135.3	12		2	1	2					17	X
	34	静川8	15,660	50	1/313.2	25	1	6	3		2		13		50	III
	74	静川29	1,938	3	1/646.0	1						1	1		3	VII
	75	静川30	9,375	17	1/551.5	12		4			1				17	VII
	76	静川31	1,094	2	1/547.0	1					1				2	VII
	78	静川33	3,375	2	1/1687.5	1		1							2	VII
	79	静川34	4,713	6	1/785.5	6									6	VII
	80	静川35	3,281	1	1/3281.0	1									1	VII
静川台地合計			83,995	258	1/325.6	131	14	32	9	22	10	1	35	4	258	
柏原	15	柏原16	3,778	16	1/236.1	9		2	2		3				16	IV
	16	柏原17	5,007	4	1/1251.7	1					3				4	VIII
	17	柏原18	4,904	15	1/326.9	1		1	2		9		2		15	V
	18	柏原19	2,125	6	1/354.2	4	2								6	IV
柏原台地合計			15,814	41	1/385.7	15	2	3	4		15		2		41	
遠浅	81	遠浅1	4,243	2	1/2121.5	1								1		II
合計			177,830	534	1/333.0	248	39	71	29	35	68	1	38	5	534	

Tピットの報告されていない遺跡は含めていない

番号は図II-4-5に対応 報告書は「苦小牧東部工業地帯の遺跡群」の報告書シリーズ名